

第四十六回 顎関節症と首の骨との関係

首の骨は正常な人は前方湾曲しているものです。

頭蓋骨で使われた古い血液は頭蓋骨の硬膜静脈洞から内頸静脈そしてさらに上大静脈そして心臓の方へもどっていきます。

首の骨が前湾していますと頭の重さ、衝撃により緩和され、血流も正常に保たれるものですが、首の骨が直になると圧迫がおこり、負担がかかるので体全体の血流が悪くなり、足の裏に豆が出来たり、足の裏が痛くなるだけでなく、内臓始め全身が酸素欠乏の状態では血流が悪く、冷え性となり、色々な不定愁訴がおこるものです。

ところが、それ以上に悪くなるのは首の骨の後方カーブをおこし、首の骨の直よりもさらに障害が大きくなります。

難病と言われている硬靭帯硬化症になったりするものです。

首の骨の後方カーブの為に頭が支えられなくなり、肩の凝り、頭痛だけでなく、椎骨(ついこつ)動脈(首の骨に沿って、左右2本走り、上部の首の骨だけ骨の中を通り頭へ)が狭窄されて、めまい、失神発作、ふらつき、複視、眼振、耳鳴り等、色々な症状をおこしたりするものですが、椎骨動脈が狭窄されて頭がうっ血状態になり、心臓が血液を送らなければならないという信号が送られるので、心拍数が増加して交感神経が緊張する為に寝れないだけでなく、内臓始め体全体がうっ血状態になるものですから、足の血管が膨らんで神経に触れて、寝ていると足がむづむづしたり、朝起きると足が重い、頭がボーとしたり、まぶたの開きが悪いとか色々な症状をおこすだけでなく、イライラしたり、汗も普通の人以上に汗がよく出、体温も高めですが、汗の出ない人はさらに、それ以上に体温が上がるものです。

正常に戻す為には、骨盤・背骨・首の骨・頭蓋骨の外側の骨から又、口の中へ指を入れて軽い力で頭蓋骨を動かし、顎関節症を治し、最後に歯の噛み合せのバランスをとることです。(いきなり歯の噛み合せの調節だけしますと、傾いた家をさらに傾くように体のバランスがますます崩れるものです)そうすることにより、血流がよくなり、病気の治癒に大きく貢献するものです。

自分の血液は最高の薬です。

砂漠に植物を植え、肥料をたっぷり与えても新鮮な水を与えなければ枯れるものです。

病人は必ず首の骨は後方カーブになっているものです。

血液の流れが悪い(首の骨が直又は後方カーブになっている)ところへ、自分の体に合わない薬を投与しますと、さらに強い後方カーブをおこすものです。

体が欲求している種類の薬が必要となります。

急性症状の時、強い薬でも体が受ける時がありますが、慢性の状態なれば、もう、その薬は体が

拒否反応するものです。

たとえ、拒否反応がしない薬であっても、首の骨が後方湾曲のままだと絶対に治りはしないものです。つまり、症状を押さえるだけのものしかならないものですから、いつ迄も薬を飲み続ける事になります。

又、抗生物質も同じです。耐性菌が出来て、もうこれ以上の抗生物質はないと医者に言われ、化膿したところが、何ヵ月経っても治らない時、首の骨は後方湾曲です。前方湾曲にしますと、数日でよくなる時もあるものです。

自分に合わない薬又は劇薬を服のポケットに入れますと、口の中の左側の蝶形骨の翼状突起（上の歯の奥の奥を越えてさらに歯肉のドテを越えたところ、突起の先が指に触れる）が一瞬にして左側が後へ下がります。

劇薬をポケットからとり出し、1m位離れたところに置きますと一瞬に又、元の状態の位置に戻るものです。

蝶形骨の翼状突起がわからなければ、別の骨である側頭骨の乳様突起は耳の下後 5mm位のところに小指の先位の突起（多少動きが鈍いです）が同じように劇薬を服のポケットに入れるだけでも、左側は後へ下がり、又左右の突起が上下にズレたりするものです。

当然、上顎の左右の歯肉のドテ、歯も上下にズレるものです。

このように、首の骨が後方湾曲しますと、顎関節症を治さねば元には戻りません。それでも元に戻らなければ、さらに歯の噛み合せの調節をしなければ元に戻らないものです。

電磁波も同じです。パソコン又は、パソコン以上に強力な電磁波を出すのは鉄道の新幹線です。新幹線は高速で走るから気分が悪いとか、人によっては耳が痛いとか言いますが、そうではありません。低速で走り始めた時、蝶形骨の翼状突起又は、側頭骨の乳様突起が左右にズレるのがわかるでしょう。又は、左右の歯を咬むのではなく、左右均等にそつとあててきますと、片方の歯があたって、片方の歯があたらなただけでなく、左右の足の長さが違っているのがわかるハズです。つまり体全体が捻れ血流が悪くなり、首の骨が後方カーブになるものです。

新幹線を降りて元の状態に戻ればよいですが、ほとんどの人は元に戻らないで体の不調を訴えるものです。つまり、首の骨が後方カーブをおこしている事です。

若い新幹線の乗務員が歯ブラシをきっちりやっても、むし歯の治療が終わったと思ったら、又新しいむし歯の治療とそのくり返し、乗務員の仕事を止めると、むし歯がなかなかおこらないという話があります。（口の中には食べ物の残りカスがあり、湿度があり、体温が少し上昇することにより細菌が増えやすい環境になる）

医者に診てもらって薬を長期間服用してもなかなか病気が治らない時、原因がわからない時は、神経と血流が関係しているものです。

神経の細胞は頭蓋骨に 90%、おしりの骨盤の仙骨に 10%分布しています。そして神経線維によ

り、体のすみずみまで張り巡らされています。

歯の咬み合せのバランスをとる事で骨と骨とのズレを治すことで神経の圧迫を正常にし、血流をよくすることにより、自然治癒力が働くものです。

骨格が捻れた状態で歯の咬み合せの調節では咬み合せが高いと思ったところが骨格を治すことにより逆に低くなったりするものです。